



有松まちづくりの会役員会

名古屋市の指示により有松コミセンも5月連休明けまで休館となり、4月定例会も中止となりました。また、5月15日(金)開催予定の「令和2年度有松まちづくりの会 総会」も無期延期となりました。

会報「有松」No82(年2回発行)が3月31日に発行されました。ご覧ください。

HPの紹介 その2「有松・桶狭間お宝カルテ」

お宝カルテは、有松桶狭間観光振興協議会の事業の一環として行われました。平成18年に、この地域にはどんなお宝があるか調査する「お宝発掘集会」が開かれ、100余名から提案された150点以上のお宝から100点余りを選び、1件1枚のカルテとして収録したものです。

カルテは、検索しやすいように「戦のみち」「絞のみち」「町並みのみち」に分類されています。一度クリックされてはいかがでしょうか。

《「有松・桶狭間 お宝カルテ」の呼び出し方》

「有松のまち」入力→検索→有松桶狭間観光振興協議会→お宝カルテについて

指定文化財の説明看板 新装なる

有松にある指定文化財の説明木製看板の文字が読みづらくなりましたので、日本遺産認定を機に、新しく作り替えられました。合わせて、日本遺産のマークも取り付けられました。看板は、西から「神功皇后車の山車庫」「小塚家住宅」「岡家住宅」「竹田家住宅」「唐子車の山車庫」「服部家住宅」「服部幸平家住宅」「布袋車の山車庫」の8枚です。

《山車庫について》 山車庫は文化財に指定されていません。中に納められている山車を含めて山車まつりが無形民俗文化財に指定されています。



有松観光案内所終了のお知らせ (NPO法人 コンソーシアム有松)

令和2年4月1日より有松を訪れるお客さまのため、名古屋市の皆様のご協力により有松・鳴海絞会館内に「日本遺産有松案内コーナー」と名鉄有松駅改札口前に観光案内板とパンフレット配布棚が開設されることになりました。これに伴いNPOが自主運営しておりました「観光案内所」の業務を無事に終了することになりました。今まで2年間ご協力頂きました皆様に感謝とご報告を申し上げる次第でございます。有難うございました。

令和2年3月31日 NPO法人コンソーシアム有松 中村倭子



有松駅改札口前の観光案内板

新型コロナウイルスに揺れるまち 3話

3月はまだ個人客で有松を訪れる人が見られましたが、4月はぱったり。満開を迎えた桜も寂しそう。一変したまちの様子を紹介します。



○「絞り鯉のぼり」でまちを元気に！

NPO法人コンソーシアム有松の主催でウイルスに負けない「有松絞り鯉のぼり」の制作が有松小トワイライトと有松松柏



東海道

苑で、4/3～12に行われました。

トワイライトでは、胴体部分をスーパーボールを使って絞っていました。また、ガーゼハンカチも同様の方法で絞り、手作りマスクに利用していただけるようにしていました。

制作された鯉のぼりは、4/25～5/6イオンタウン有松の2回通路に展示されるとのことです。

○ 参加者激減の有松小トワイライトルーム

訪れたのは4/10の14時、17名程が学習プリントに取り組んでいました。机に一人ずつ。その後、ビデオ視聴と絞り体験に分かれての活動です。感染防止のため30分で運動場へ出ました。指導員の方は換気やアルコール



消毒に忙しいです。森下専門員に聞くと「小学校に登校した子のうち希望者が参加するので、従来80数名だが5分の1の参加。感染が怖く参加をためらう保護者もいるかもしれない」とのこと。

○ 行列のできている店

毎朝、絞りの久田有松駅前店では行列ができます。並んでいるお客様に理由を聞くと、「絞りのマスクを買うためです」と。以前から絞りを活用した小物として販売していたものですが、新聞に取り上げられ、河村市長が使用されている映像も流され、購入されるお客様が急増しました。「手作業で多くは作れず、短時間で完売となり、申し訳なく思っています」とのこと。他のお店でもマスク販売が行われています。

絞会館でも、4月中旬にマスク販売がマスコミで紹介されたことをきっかけに連日多くのお客さんが来館されます。8時頃から列ができ80名程の人が並びます。開館時間を30分早く9時過ぎから販売しているそうです。地元業者の方の手作り、200枚程なので数10分で売り切れるそうです。職員の方に聞くと「ご自身や家族の分だけでなく、知人に差し上げる分を購入する方もいるみたい」と。マスク在庫の問合せも多く、てんてこ舞いの様子でした。



絞りの久田店



絞会館

知ってますか？ 絞りまつりのこと

今年の絞りまつりは中止となりました。この機会に絞りまつりの歴史をひもといてみます。

1. 戦前の絞りまつり

戦前には、絞開祖竹田庄九郎の記念日として7月11日に絞りまつりが行われていた。庄九郎の命日は2月11日であるが、絞りの最盛期の7月に変えたのである。

第1回は昭和9年であったが、当時の深刻な不況の中積極的に絞改良が必要とされ、その一環として始められた。主要行事は以下の通りである。

1. 絞開祖竹田庄九郎の供養及び物故絞功労者の慰霊
2. 優良な絞商店並びに模範店員徒弟の表彰
3. 絞研究発表会
4. 絞製品即売

現在の絞りまつりと内容は異なり、写真撮影大会・花火・芝居・絞り廉売市が行われ東海道沿いの絞り店の店頭には色とりどりの絞りが陳列されていた。また絞研究発表会では、全絞商が研究の結果を発表することにしたため、優秀な製品を送り出そうと大いに力を入れた。

回を重ねるに従い好評を博し業界発展に大変効果があり、同時に有松絞りの宣伝ともなり、名古屋方面や近郊から多数の人出で賑わった。しかし、昭和13年には戦時統制のため絞りの製造が禁止された。このような時代背景の中で、同年絞りまつりも5回で中止となった。 (続く)

参考文献：「有松町史」（有松町史編纂委員会）「有松志ばり」（有松絞技術保存振興会）



昭和初期の絞りまつり風景

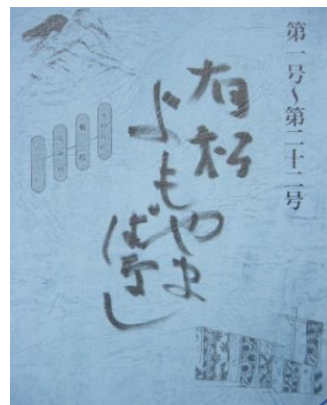
投稿 有松スケッチ2 湯地昭夫氏



竹田家

「有松よもやまばなし」合冊本できる

「有松よもやまばなし」は、昨年の絞りまつりで第22号が発行されています。有松が日本遺産に認定されたことを機に、平成9年発行の第1号からが1冊にまとめられました。そこには、1608年の開村以来積み重ねられてきた小さな出来事の一つ一つが綴られています。皆さんに知っていただくために、有松あないびとの会や絞組合の会員などに配られました。また、有松小・中学校や近隣の学校の他市内全部の図書館にも配られました。是非お読み下さい。



有松の紙芝居のはなし3 「ごんべい谷物語」

(文：浅野康子 絵：名古屋短期大学辻のぞみ教授ゼミ)

このお話は古くから有松に伝わる話を紙芝居用に作文したものです。ごんべい谷というところは実際に地名としてありますが、特定の場所ではなく一帯を表現したものだと思います。内容は、ため池※の多かったこの辺りの開墾と自然の共存のお話です。

浅野康子さんに作品への思いを語っていただきました。

「そもそもこの作品は、私がトワイライトで指導員をしていたときに自作したものです。10年ほど前に昔話として伝わってきたお話を紙芝居用として作り、絵も自分で描きました。初めての紙芝居で思い出深い作品です。その後、名短の学生さんが絵を描いてくださり素敵な作品になりました。」

※緑区の池数49は名古屋で最多(市計111：2010年度)



ガイドの現場から「私の町並み案内」 有松あないびとの会 森 一郎

あないびとになって2年。案内で心掛けていることはお客さんに有松を感じていただくことです。東海道が整備されたことで、お伊勢参りや京都見物等が容易になったこと。庄九郎の地元で木綿が生産されていたので、それを染めることに着目できたこと。このようなことに気づいて欲しいと思います。案内にあたり、常にお客さんに怪我がないよう側溝等の危険箇所や車の通行に気配りしています。私が一番興味を持ったことを話すようにしていますが、満足して帰られたか気になるところです。

お勧めスポット：藍染川沿い



本の紹介「感染症大全」堤寛著 飛鳥新社 1636円+税

昨秋、舁屋で開業した「つつみ病理診断科クリニック」の堤寛院長が時を得た著書が出版されました。感染症の診断が得意な先生らしく、新型コロナを含むヒトと感染症の歴史が手短かにまとめられています。また、感染症Q&Aは今日の事態への理解を深めるものとなっています。

クリニックでもお求めいただけます。



催事・行事の予定

- 5月03日(日) 09:00 有松東海道青空市 商工会周り 青空市運営委員会
5月15日(金) 13:30 有松まちづくりの会 総会 絞会館・・・延期となりました。
5月24日(日) 07:30 かえで道清掃 有松まちづくりの会
5月25日(月) 18:00 有松まちづくりの会役員会 コミセン

発行者：竹田嘉兵衛(有松まちづくりの会 会長)

編集者：加藤 一成(有松まちづくりの会 広報部員)

T・F 052-623-1676 090-4163-2671

E-mail katoisse@mc.ccnw.ne.jp

有松まちづくりの会は、ホームページを公開しています。

有松のまち

検索

有松探訪

浮世絵にみる有松絞り店 3

尾州有松絞店之図 河村弥平店先

有松あないびとの会 山本文雄

名古屋市博物館常設展テーマ10「浮世絵にみる有松絞り店」に展示された浮世絵を紹介します。

ボストン美術館の浮世絵コレクションはインターネットで公開されており見ることができます。

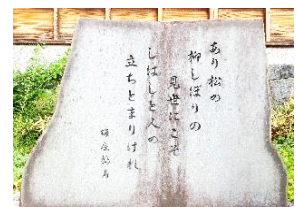
丸に川の字は川村屋弥平の店です。「有松志ぼり」(有松絞技術保存振興会)によると、成岩村から移住し、竹田庄九郎家に20年奉公し、文化5年(1808)に独立したといひます。幕末期にはすでに有力な絞商で、歌川広重に店を描かせています。往来には、立派な駕籠から降りる上級武士、馬に荷を乗せた町人、御用と書かれた提灯と御状箱を担いだ二人一組の継ぎ飛脚など、様々な旅姿、店に入り込んで商談する様子も描かれています。

右上に絞りの反物が干してあるのは、もはやお決まりの「映え」ですね。看板には「名産 阿里松しほり かけねなし 河むらや」暖簾には「根本 河村弥平 絞所 絞新もやうしなしな 正札引きなし」とあります。「根本」は元祖の意味もありました。申し合わせなど、文書の署名では「川村屋弥平」なのに、なぜ店の名は「河村」なのでしょう?ご存じの方教えてください。

左上の吹き出しには「有松の纈纈は東海第一の名品にして、流行に賑わい、新奇を競う中にも川村の店の繁栄なるや、かけわたしたる、くくり染めの、みどりくれない其の色は、春の錦といひけむ、柳さくらにもまさりて、往来の旅人必ず、つとにせさるものなし。」とあり、続けて「あり松の柳しぼりの見世にこそしばしと人の立ちとまりけれ 梅屋鶴寿」この狂歌は、まちづくりの会のホームページにも取り上げられ、祇園寺前に歌碑が建てられています。

右の写真は昭和50年当時の川村屋です。

注記：川村屋の主屋は平成17年に立て替えられました。東蔵・西蔵(嘉永3年建造)や絞蔵(明治22年建造)は残されており、川村小路沿いに建てられています。

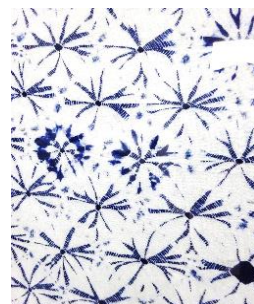


祇園寺前の歌碑

絞り探求3 蜘蛛絞 説明 絞会館実演者 堀田まき子さん

有松で最初に手がけられた絞りは蜘蛛絞とされています。当初は手拭いとして作られ屋外の竹竿に吊し、街道に行く旅人に売っていたそうです。蜘蛛の巣のような図柄なので蜘蛛絞と名付けられました。絞会館でお話をお伺いしました。

(説明要約：伊藤総俊)



Q1 蜘蛛絞の作り方を教えてください。

生地を鉤針に引っ掛け、水で湿らせて引っ張り気味に傘の竹骨のように襷をたたみます。そして、根元をしっかりと巻き、2～3mmの間隔で巻き上げ、再び根元に戻ります。糸は切らずに続けて括りますので、糸抜きは楽ですね。引っばるだけで取れますので。

一巻き一巻きギュッと絞ることが大事です。しっかり絞める力がなくなったら引退とされています。

Q2 連続して柄を括るのは難しそうですね。

真横に括っていきませんが、印が付けられていないので、針の位置は布の引っ張り具合で決めます。「ここだ」という正しい位置を決めるのが一番難しいです。一反の幅で柄は多くて8個程です。指が入らないと針の位置を取れないし、襷をたたむこともできません。

(補足：括った根元は横四角形になり、石を積み重ねるように粒を揃えて括ることが難しいです。)

Q3 1反を仕上げるのに、どのくらいかかりますか。

毎日5時間ほどやって、2週間ぐらいかかります。でも、実際には毎日5時間はできないので、もっと日数がかかる。絹物だと襷も取りにくく、やりにくいです。

Q4 蜘蛛絞を修得しようと思ったのは？

40歳の時、愛知県絞工業組合の後継者育成講座を受講したのがきっかけでした。蜘蛛絞を主に習うようになって15年以上過ぎました。本間とめ子先生について習ったのは7年前かな。「私ができなくなると(蜘蛛絞を)やる人がいなくなる」と、よく先生が仰っていたので、蜘蛛絞を選ぼうと思いました。

それに、絞り方も好きでした。苦手な縫うことはないし、印付けを頼む必要もなく全部一人でできるのもいいです。

ところで、大先輩の本間先生をモデルにした絵画「伝承」が資料室に掲げられていることを知っていましたか。

《 訪問を終えて 》

生地をつまんで根元より巻き上げるやり方は単純な絞り方のように見えますが、下絵もなく全て手加減で大きさを揃えて括ることが求められる難しい技法であると感じました。

作業工程



実演中の堀田まき子さん



「伝承」大谷笙紅 作

